

みずほCustomer Desk Report 2020/08/03号(As of 2020/07/31)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD	公示値	104.61
TKY 9:00AM	104.70	1.1872	124.20	1.3118	0.7202		
SYD-NY High	106.05	1.1908	125.20	1.3170	0.7227		
SYD-NY Low	104.20	1.1763	123.86	1.3071	0.7134		
NY 5:00 PM	105.92	1.1776	124.69	1.3084	0.7143		
NY DOW	26,428.32	114.67	日本2年債	-0.140	0.00bp		
NASDAQ	10,745.28	157.46	日本10年債	0.010	▲1.00bp		
S&P	3,271.12	24.90	米国2年債	0.108	▲1.18bp		
日経平均	21,710.00	▲ 629.23	米国5年債	0.208	▲2.05bp		
TOPIX	1,496.06	▲ 43.41	米国10年債	0.532	▲1.15bp		
シカゴ日経先物	21,940.00	▲ 310.00	独10年債	-0.5325	1.50bp		
ロンドンFT	5,897.76	▲ 92.23	英10年債	0.1020	1.35bp		
DAX	12,313.36	▲ 66.29	豪10年債	0.8360	▲4.00bp		
ハンセン指数	24,595.35	▲ 115.24	USDJPY 1M Vol	7.28	0.28%		
上海総合	3,310.01	23.18	USDJPY 3M Vol	7.43	0.08%		
NY金	1,985.90	19.10	USDJPY 6M Vol	7.98	0.02%		
WTI	40.27	0.35	USDJPY 1M 25RR	-1.19	Yen Call Over		
CRB指数	143.69	0.92	EURJPY 3M Vol	7.92	▲0.08%		
ドルインデックス	93.35	0.33	EURJPY 6M Vol	8.32	0.04%		

東京	オーストラリア時間に104.80を付けるも東京時間のオープンは104.70レベル。午前11時頃まで一本調子で下げ続け104.20と3月12日以来の安値を付けた。その後、一旦は反発を見せたものの午後に入り再度104.20まで下落し戻りの鈍さを見せた。その後は緩やかに戻りを見せ104.38レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場ドル円は上昇した。104.38レベルでオープン。岡村財務官の発言「政府・日銀は引き続き市場動向を注視、必要があれば一括となって取り組む」や月末需要の噂、そしてポジション調整等に105.00まで上昇し104.90レベルにてニューヨークへ渡った。ユーロドルは欧州景気先行き不透明から売られた。1.1886レベルでオープン。ユーロ圏4-6月期GDP速報値が前期比▲12.1%と記録的な悪化となり欧州経済への懸念が広まり1.1828まで下落した。1.1841レベルでニューヨークへ渡った。ポンドドルは1.3128レベルでオープン。1.31台前半でしっかり推移し1.3143レベルでニューヨークへ渡った。
ニューヨーク	ドル売りの流れが継続し、海外市場で104.20まで下落したドル円は、その後は月末のリバランスによるドル買い戻しの思惑にじりじりと値を戻し、104.90レベルでNYオープン。朝方は米6月個人所得が予想以上に低下する一方、支出が予想を上回り、前回分も上方修正されたことから、同時に発表された第2四半期雇用コスト指数が予想を下回ったものの、ドル買いが更に強まり105.20まで戻す。その後もNYのオプションカット、ロンドン4時フィックスに掛け月末のリバランスと思われるドル買いが強まり、105.83まで上昇する。ロンドンフィックスを過ぎるとドル円は反落すると思われたが、週末を控えているからか、更にドル買いが持ち込まれ、106.05まで戻す。午後は105.75-97での方向感の無い推移が続き、終盤に掛けて大手格付け会社が米国の格付け見通しを安定的からネガティブへ変更したもののドル円の反応は限定的となり、105.92レベルでクローズした。一方、海外市場でドル買いが継続し、2018年5月半ば以来に1.19台に乗せ、1.1908まで上伸したユーロドルは、その後月末のリバランスを意識したドル買いに反落し、1.1841レベルでNYオープン。朝方はドル買いが更に強まり、1.1802まで反落する。その後一旦1.1851まで戻す局面もあったものの、再びドル買いが継続し、ロンドン4時フィックスを過ぎてもドル買いの流れが止まらず、1.1763まで反落する。午後に入り一旦1.1805まで戻す局面もあったが、週末を控えた調整からか、上値を重くし1.1776レベルでクローズした。

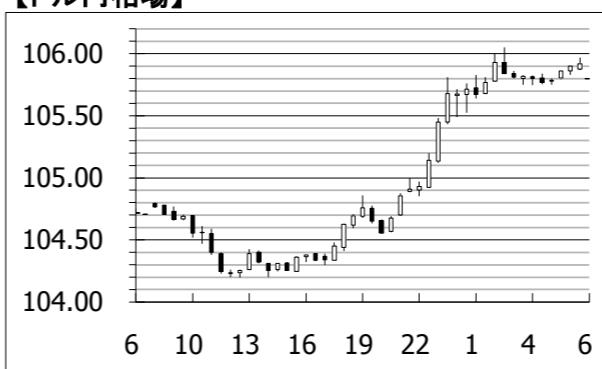
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
7月31日	08:50	日 鉱工業生産(前月比/前年比)・速報	6月 2.7%/-17.7%	1%/-19.3%
	10:00	中 製造業PMI/非製造業PMI	7月 51.1/54.2	50.8/54.5
	18:00	欧 GDP(前期比/前年比)	2Q A -12.1%/-15%	-12.1%/-14.5%
	18:00	欧 CPI(前月比/前年比)・速報	7月 -0.3%/0.4%	-0.5%/0.2%
	21:30	米 個人所得/個人支出(前月比)	6月 -1.1%/5.6%	-0.6%/5.2%
	21:30	米 PCEデフレーター(前月比/前年比)	6月 0.4%/0.8%	0.4%/0.9%

【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
8月3日	08:50	日 GDP(前期比/前年比)・確報	1Q -0.7%/-2.8%	-0.6%/-2.2%
	16:55	独 マークイット製造業PMI・確報	7月 50	50
	22:45	米 マークイット製造業PMI・確報	7月 51.3	51.3
	23:00	米 ISM製造業景況指数	7月 53.5	52.6
	23:00	米 建設支出(前月比)	6月 1.0%	-2.1%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【ドル/円相場について】

日本時間に一時104.20まで値を下げたドル/円は、欧州時間に入ると、月末のリバランスによるドル買いの勢いが強まる中上昇基調へと転じ、一時106.05円をつける。その後、大手格付け会社が米国格付け見通しの安定的→ネガティブへの変更との報道があったものの、反応は限定的で105.92円の高値圏でクローズ。ドル/円は上値が重い展開を予想する。31日は月末の調整によるドル買いが入ったものの、新型コロナウイルス第2波リスク、米中対立の激化等、下落が想定される不安材料は市場全体に残っており、上値の重さが意識されよう。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧説を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:鈴木・木村 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	甲斐	牛島	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
山口	小野崎	玉井	原田	大庭	上遠野	松本	逸見	大谷	小林
ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル 6
ベア 14